

古今文綜

野庭書譚

萬葉集

卷之三

古今文統

野侯書眉

丙辰孟春中
華書局銅版

綴言

古文之目自唐而興單行票姚詬爲起衰而矯之者遂謂單行爲言用偶爲文深屏世之所謂古文一挑一剔無殊小慧駢散之爭既成閩市自來選家亦分涂轍各揭一幟絕不相容平心論之韓歐傑出時屬唐宋搘之以古則三代秦漢置於何地必曰用偶爲文轉相詆譖則孔子所作文言未嘗悉是偶語蔑古蔑聖其失惟鈞李申耆云天地之道陰陽而已陰陽相並俱生故奇偶不能相離方圓必相爲用溝而通之可稱卓識故所選文鈔奇偶並錄特其命名囿於駢體斯一閒之未達者也孔子有言物相雜故曰文茲書擇善而從意主渾圓爲散爲駢不取標揭但名爲文亦取參伍錯綜之誼爰名爲綜事不師古理惟求是區區之旨竊在於斯已上定名大意第一

昭明文選各以彙聚詩賦之屬乃以類分寶臣文粹隨文分目碑曰姦雄銘曰暴虐命意則善定名或乖厥後吳氏文章辨體徐氏文體明辨賀氏文章辨體彙選

析類數十或至百餘踵事增華亦云詳備惜抱類纂括爲十三春木文錄括爲十七滌生雜鈔括爲十一稍稍趨於弘整矣茲書凡六部十二類曰論箸序錄推闡發明是其職志爲第一部曰書牘贈序所以敦倫好寄情愫爲第二部曰碑文墓銘伐石鐫辭垂諸不朽體則異旨則同爲第三部曰傳狀志記表章人物亦碑文墓銘類也爲第四部曰詔令表奏廟堂之製高文典冊別成一體爲第五部曰辭賦雜文掞張之作統紀於此爲第六部箴銘頌贊省入辭賦類意以韻文體質相近然祭弔哀誄六類滌生哀祭爲一類箴銘頌贊省入辭賦類彥和文心雕龍雜文韻文爲多招魂些詞淵源可溯茲廣滌生之例省入辭賦類彥和文心雕龍雜文所舉僅有三目對問連珠與七是也後世有作波譎雲詭顧名思義并以附焉已上分部大意第二

總集別集流傳夥矣要其溼渭析爲兩事一曰歷史之屬一曰實用之屬曷謂歷史古之所有今之所廢者也曷謂實用古今不廢者也約以今名前者曰陳文後

者曰生文。生文所以眡其效。陳文亦以博其趣。茲書標名古今兩事並錄。特所崎重在於實用。分目詳略。依斯爲準。論箸序錄書牘贈序碑文墓銘傳狀志記抉宇宙之奧。發事物之蹟。通性情之正。揚風烈之懿。皆生文也。故此四部標舉法式。不厭煩細。詔令表奏限於時代。此陳文也。詞氣堂皇。多大手筆。兩漢之文。此尤翹楚。多聞善識。聊博其趣而已。辭賦之才。古稱君子。今匪急務。特示一斑。頌贊箴銘。祭弔哀誄。亦生文也。備陳流變。藉資采擇。至於雜文之屬。略同辭賦。鉤其危異。以終吾篇。已上析目大意第三。

拘墟篤時。莊生所謂文章之用。與世移變。今之所開。古不得圓。近世攀治科學。析類之事。目爲至要。植物學家部門科屬諸名。井井而談。屬隸無紊。譬諸草木。區以別矣。矧在文章。渠不若彼。茲書以部統編。以編統章。每章之中。先爲甲乙。次爲一二。次爲子丑。次爲金石。次爲壹貳。取彼習熟。以爲符記。自我作古。大雅或呵。然苟子正名篇。曰循於舊名。作於新名。又曰單足以喻。則單單不足以喻。則兼單與兼。

無所相避則共是故有大共名有大別名則志無不喻之患事無困廢之禍大易
一卦統乎六爻揚雄太玄衍爲方州部家上以統下寡以制衆皆以共名別名迭
爲銜屬且篇析子目管子呂覽已有先例甲乙丙丁用以分別管子輕重篇又其
權輿今之作新誼實循舊至於揩弧亦有師仿古人觀書乞識其處乙之取形揩
弧爲近藉以豁目於文無害惟子目複雜分章斯長覽者於此易滋疑詫章實齋
論篇卷有云要在文以足言成章有序取其行遠可達而已篇章簡策非所計也
已上格式大意第四

昭明文選上采史文不錄經子茲書宗之惟無韻誄文窮於舉例錄哀公誄仲尼
一首文選不錄並世蓋以標榜聲氣君子弗欽自後選家大率敷法迨惜抱類纂
近及方劉黎氏續纂並世亦錄茲書約以清末爲斷其以實用攸關無從示式破
格爲之僅何維棣孫同康兩首而已至於湘綺虛受海內二老觥觥文宗迹彼譏
述終入著錄標榜聲氣何有嫌疑故並錄焉昭明類分時代相次申耆文鈔繫人

以代讀書論世頗便瀏覽然在斷代異議滋多漢末六朝尤爲轉轍若云某文之作時在某朝裁篇別出其言則雖但無考者何從臆決嚴鐵橋氏輯三代秦漢六朝文大率以卒年斷代茲書依焉五代終始僅五十年倘以閱世短促準全唐文例繫之於唐唐已亡矣繫於何有茲書爰稱五代不復著其代別朱明遺老黃顧之儔春木邁堂兩家文錄已隸之清茲亦從之蓋卒年斷代例也惜抱中者箸錄之人惟稱其字字或湮佚遂致參差且史傳揭目大都稱名茲書從之庶幾一定已上斷限大意第五

學術思想表於文字爾其爲爭約有兩端一曰異同一曰新舊距楊墨闢佛老子漢宋殊涂朱陸背僻持之有故言之成理此異同也君臣倫常之重春秋夷夏之嚴諸所擎乳今成繆說此新舊也茲書生文陳文意在並蓄所以存本來公是非博會通閼觀覽且所言者其人與骨皆已朽矣大同新理寧足以繩維古有言毋文害辭毋辭害意是之取爾已上采輯大意第六

不佞供職浙江安定中學校及浙江第一中學校主任國文凡十二載中間部章更迭國文時間或贏或縮終以文章公式猝難理董一暴十寒弗敷講貫問業之士餘力學文參考博覽期之課外頗思輯一善本彌其缺憾麤定義例暇輒鈔纂積年既久卷帙稍多今年備職中華書局遂承謹謹此舊業復加推衍差云殺青古人著書志在名山不佞之作無此閑願應時勢之需求供學生之參鏡斯其體例在課本講義之間且古本多殘石刻易漶壺鼓方圓讀之意沮或有鴻文雅箸氣體卓然作家所矜初學未習故舉例之文間不從朔譬之教旨有實有權因人而設不得已也復於每章每日略綴言辭擇其源委述其體要大抵彥和知幾實齋諸家之說碑文墓銘折衷蒼崖以下諸金石家之書考文正名溯源原始一以說文爾雅釋名獨斷文章緣起諸書爲宗已意所及十裁三四辭取達意不爲博考亦思繁而不殺使人倦覽至於圈點所以抉菁華示義法歸茅有作世人所重惜抱亦云發人神智取便學子毋寧存之在今日爲筌蹄在明日爲芻狗從宜

從俗鴻喆勿譏已上平點大意第七

譏錄艱苦亦得略陳始立目以求文繼因文而生目意在異例並存而佳篇亦不割棄又同此一文目可兩收衡量彼此審其輕重往往一日之成十易其稿諦觀極審尙覺難安姚漢章作霖商訂體例綜甄得失齷齪討論獲益弘多馮巽占令之朱寶瑜瑾甫王夢曾肖巖或與糾繩或助搜輯他山之石均藉玉成及門李直守愚潘廷貴用和勵勳校讐亦至劬劇許邁孫有言校讎之學兩途一曰求古一曰求是求古者沿襲舊本以存其真求是者搜采羣籍舍短從長以求其安茲書之作意主實用略師求是曹子建與楊德祖書曹集銓評本德璉發迹於大魏張溥本作北魏汲古閣文選本作此魏揆之文義大魏爲善王芥子答胡靜菴書樊姍行藥花雨樓本駢體正宗作行樂行藥見北史邢轡傳於義爲長王仲宣荊州文學記官志嚴鐵橋輯本百氏備矣句下多百八八字語意與文心雕龍宗經篇同屬詞不類疑爲誤合申耆文鈔本無之則從李本王子安滕王閣序蔣清翊

註本與初唐四傑本不同俗本訛缺殆數十字則從蔣本始皇刻石諸文有碑本者以視各家所錄往往微異則從碑本他如史漢文選時相差午鹿門文鈔惜抱類纂錄八家文以校原集每有增損凡此之屬擇善而從不枚舉也艱苦所歷此其幸較訂改補增頽之異日惟冀海內碩士有以匡之已上訂校大意第八

民國四年十月杭縣張相獻之父識於上海中華書局

古今文綜類目

第一部 論箸序錄之屬(第一冊至第七冊)

第一編 論箸類(第一冊至第三冊)

第一章 論之體製

第一冊

(甲)論理

(乙)論文

(丙)論政

(丁)論史

(一)史傳論

(二)史論

(子)論制度

(丑)論學術

(寅)論形勢

(卯)論人物

(金)論一人一事

(石)數人合論

(戊)雜論

第二章 論之作法

第三冊

(甲)敷陳

(乙)問答

(丙)整鍊

(丁)清折

(戊)翻騰

(己)申前人之說

(庚)駁前人之說

第三章 論箸之其餘各體

第三冊

(甲)辨

(一)辨理

(二)辨事

(三)辨古書

(四)辨地理

(五)辨古人

(乙)說

(一)說理

(二)說物

(三)雜說

(四)設說

(五)字說

(六)贈說

(丙)議

(丁)原

(戊)義

(己)解

(一)理解

(二)喻解

(庚)釋

(一)疏釋

第二編 序錄類(第四冊至第七冊)

第一章 箴述之序上.....第四冊

(甲)自序
·
·
·

(一)序單篇
·
·
·

(子)史傳序
·
·
·

(丑)文序
·
·
·

(二)序全帙
·
·
·

(子)詳序
·
·
·

(丑)渾序
·
·
·

(金)以闡發之法序
·
·
·

(石)以謙抑之法序
·
·
·

第二章 箴述之序中.....第五冊

(乙)序人著述
·
·
·

(一)序單篇
·
·
·

(二)序全帙

(子)詳序

(丑)渾序

(金)關繫

(壹)爲前輩序

(貳)爲後輩序

(參)爲婦人序

(肆)爲方外序

(伍)爲外國人序

(己)作法

(壹)以列傳之法序

(貳)以史志之法序

(參)以地記之法序

(肆)以紀事之法序

(伍)以感歎之法序

(陸)以託諷之法序

第三章 箴述之序下

第六冊

(柒)以諍論之法序

(捌)以闡發之法序

(丙)序古書

(一)以辨證之法序

(二)以闡發之法序

(丁)序譯書

(戊)序圖

(己)序表

(庚)序譜

(辛)後序

(一)以闡發之法序

(二)以謙抑之法序

(壬)上下序

第四章 雜序

(甲)序人

(乙)序物

(丙)序宴集

(丁)序身世

(乙)評罵文字

(辛)記後

第五章 序錄之其餘各體 ······ 第七冊

(甲)譜

(乙)錄

(丙)跋

(一)跋故籍

(二)跋書體

(三)跋詩文

(四)跋圖畫

(丁)題

(戊)讀

(己)引

(庚)書後

(一)闡發事實

第二部 書牘贈序之屬(第八冊至第十六冊)

第一編 書牘類(第八冊至第十二冊)

第一章 敘事之書上 ······ 第八冊

(甲)論學

(乙)論文

(一)評罵

(二)闡發

第二章 敘事之書中 ······ 第九冊

(丙)論政

(丁)雜論

(戊)辨駁

第三章 納事之書下 ······ 第十冊

(己)諷勸

第一章 別序之體製 第十三冊

第二編 贈序類(第十三冊至第十六冊)

(乙) 啓

(一) 議論

- (庚) 贈藉
(辛) 干謁
(壬) 況狀

第四章 達情之書上 第十一冊
- (甲) 感慕
(乙) 牢騷
(丙) 淡
(丁) 懊傷

第五章 達情之書下 第十二冊
- (戊) 懇摯
(己) 側鑿
(庚) 札
(辛) 疏
(壬) 引

(甲) 箋
(乙) 陳述

第六章 書牘之其餘各體

(庚) 贈藉

(辛) 干謁

(壬) 況狀

(一) 感慕

(二) 陳述

(三) 干謁

(四) 達謝

(五) 致賀

(六) 公啓

(七) 簡

(八) 帖

(九) 程

(十) 紹

(十一) 紹

(十二) 紹

(十三) 紹

(十四) 紹

(十五) 紹

(十六) 紹

(十七) 紹

(十八) 紹

(十九) 紹

(二十) 紹

(二十一) 紹

(二十二) 紹

(二十三) 紹

(二十四) 紹

(二十五) 紹

(二十六) 紹

(二十七) 紹

(二十八) 紹

(二十九) 紹

(三十) 紹

(三十一) 紹

(三十二) 紹

(三十三) 紹

(三十四) 紹

(三十五) 紹

(三十六) 紹

(三十七) 紹

(三十八) 紹

(三十九) 紹

(四十) 紹

(四十一) 紹

(四十二) 紹

(四十三) 紹

(四十四) 紹

(四十五) 紹

(四十六) 紹

(四十七) 紹

(四十八) 紹

(四十九) 紹

(五十) 紹

(五十一) 紹

(五十二) 紹

(五十三) 紹

(五十四) 紹

(五十五) 紹

(五十六) 紹

(五十七) 紹

(五十八) 紹

(五十九) 紹

(六十) 紹

(六十一) 紹

(六十二) 紹

(六十三) 紹

(六十四) 紹

(六十五) 紹

(六十六) 紹

(六十七) 紹

(六十八) 紹

(六十九) 紹

(七十) 紹

(七十一) 紹

(七十二) 紹

(七十三) 紹

(七十四) 紹

(七十五) 紹

(七十六) 紹

(七十七) 紹

(七十八) 紹

(七十九) 紹

(八十) 紹

(八十一) 紹

(八十二) 紹

(八十三) 紹

(八十四) 紹

(八十五) 紹

(八十六) 紹

(八十七) 紹

(八十八) 紹

(八十九) 紹

(九十) 紹

(九十一) 紹

(九十二) 紹

(九十三) 紹

(九十四) 紹

(九十五) 紹

(九十六) 紹

(九十七) 紹

(九十八) 紹

(九十九) 紹

(一百) 紹

(一百零一) 紹

(一百零二) 紹

(一百零三) 紹

(一百零四) 紹

(一百零五) 紹

(一百零六) 紹

(一百零七) 紹

(一百零八) 紹

(一百零九) 紹

(一百一十) 紹

(一百一十一) 紹

(一百一十二) 紹

(一百一十三) 紹

(一百一十四) 紹

(一百一十五) 紹

(一百一十六) 紹

(一百一十七) 紹

(一百一十八) 紹

(一百一十九) 紹

(一百二十) 紹

(一百二十一) 紹

(一百二十二) 紹

(一百二十三) 紹

(一百二十四) 紹

(一百二十五) 紹

(一百二十六) 紹

(一百二十七) 紹

(一百二十八) 紹

(一百二十九) 紹

(一百三十) 紹

(一百三十一) 紹

(一百三十二) 紹

(一百三十三) 紹

(一百三十四) 紹

(一百三十五) 紹

(一百三十六) 紹

(一百三十七) 紹

(一百三十八) 紹

(一百三十九) 紹

(一百四十) 紹

(一百四十一) 紹

(一百四十二) 紹

(一百四十三) 紹

(一百四十四) 紹

(一百四十五) 紹

(一百四十六) 紹

(一百四十七) 紹

(一百四十八) 紹

(一百四十九) 紹

(一百五十) 紹

(一百五十一) 紹

(一百五十二) 紹

(一百五十三) 紹

(一百五十四) 紹

(一百五十五) 紹

(一百五十六) 紹

(一百五十七) 紹

(一百五十八) 紹

(一百五十九) 紹

(一百六十) 紹

(一百六十一) 紹

(一百六十二) 紹

(一百六十三) 紹

(一百六十四) 紹

(一百六十五) 紹

(一百六十六) 紹

(一百六十七) 紹

(一百六十八) 紹

(一百六十九) 紹

(一百七十) 紹

(一百七十一) 紹

(一百七十二) 紹

(一百七十三) 紹

(一百七十四) 紹

(一百七十五) 紹

(一百七十六) 紹

(一百七十七) 紹

(一百七十八) 紹

(一百七十九) 紹

(一百八十) 紹

(一百八十一) 紹

(一百八十二) 紹

(一百八十三) 紹

(一百八十四) 紹

(一百八十五) 紹

(一百八十六) 紹

(一百八十七) 紹

(一百八十八) 紹

(一百八十九) 紹

(一百九十) 紹

(一百九十一) 紹

(一百九十二) 紹

(一百九十三) 紹

(一百九十四) 紹

(一百九十五) 紹

(一百九十六) 紹

(一百九十七) 紹

(一百九十八) 紹

(一百九十九) 紹

(二百) 紹

(二百零一) 紹

(二百零二) 紹

(二百零三) 紹

(二百零四) 紹

(二百零五) 紹

(二百零六) 紹

(二百零七) 紹

(二百零八) 紹

(二百零九) 紹

(二百一十) 紹

(二百一十一) 紹

(二百一十二) 紹

(二百一十三) 紹

(二百一十四) 紹

(二百一十五) 紹

(二百一十六) 紹

(二百一十七) 紹

(二百一十八) 紹

(二百一十九) 紹

(二百二十) 紹

(二百二十一) 紹

(二百二十二) 紹

(二百二十三) 紹

(二百二十四) 紹

(二百二十五) 紹

(二百二十六) 紹

(二百二十七) 紹

(二百二十八) 紹

(二百二十九) 紹

(二百三十) 紹

(二百三十一) 紹

(二百三十二) 紹

(二百三十三) 紹

(二百三十四) 紹

(二百三十五) 紹

(二百三十六) 紹

(二百三十七) 紹

(二百三十八) 紹

(二百三十九) 紹

(二百四十) 紹

(二百四十一) 紹

(二百四十二) 紹

(二百四十三) 紹

(二百四十四) 紹

(二百四十五) 紹

(二百四十六) 紹

(二百四十七) 紹

(二百四十八) 紹

(二百四十九) 紹

(二百五十) 紹

(二百五十一) 紹

(二百五十二) 紹

(二百五十三) 紹

(二百五十四) 紹

(二百五十五) 紹

(二百五十六) 紹

(二百五十七) 紹

(二百五十八) 紹

(二百五十九) 紹

(二百六十) 紹

(二百六十一) 紹

(二百六十二) 紹

(二百六十三) 紹

(二百六十四) 紹

(二百六十五) 紹

(二百六十六) 紹

(二百六十七) 紹

(二百六十八) 紹

(二百六十九) 紹

(二百七十) 紹

(二百七十一) 紹

(二百七十二) 紹

(二百七十三) 紹

(二百七十四) 紹

(二百七十五) 紹

(二百七十六) 紹

(二百七十七) 紹

(二百七十八) 紹

(二百七十九) 紹

(二百八十) 紹

(二百八十一) 紹

(二百八十二) 紹

(二百八十三) 紹

(二百八十四) 紹

(二百八十五) 紹

(二百八十六) 紹

(二百八十七) 紹

(二百八十八) 紹

(二百八十九) 紹

(二百九十) 紹

(二百九十一) 紹</